

主要な取組の結果

概要

教育委員会では今日の教育課題を解決していくため、特に、集中的・横断的に進めていく必要のある取組を、本県の教育の総合的な指針である「かながわ教育ビジョン」の「第5章 重点的な取組み」で整理し、そのうち主なものを県の総合計画である「かながわグランドデザイン」の実施計画に位置付けて取り組んできました。（※）

「かながわグランドデザイン 第3期実施計画」では、プロジェクト14において、県立高校改革をはじめとした一人ひとりの「生きる力」を高める学校教育の充実、県民の生涯にわたる学びの機会の提供、学校などを核として地域におけるコミュニティの形成を図るなど学びを支える環境づくりに取り組み、生涯を通じたかながわの人づくりを進めてきました。

ここでは、このプロジェクトの達成度を象徴的に表す指標と、実施した施策・事業の進捗状況や達成の度合いを測るためのKPI（重要業績評価指標）を点検し、主要な取組の結果を評価しています。

※ 「かながわグランドデザイン 第3期実施計画」は、令和4年度で計画期間が終了しています。

総合分析

A 生涯にわたる学びの推進

5月に新型コロナウイルス感染症が5類に移行されたことや、各学校での授業改善などにより、「県立学校施設開放の利用回数」や、「問題解決能力が向上したと回答した生徒の割合（県立高校等）」は、令和4年度より増加するなど、「生きる力」をはぐくみ、高める取組を着実に進めました。

B 生涯にわたる学びを支える環境づくり

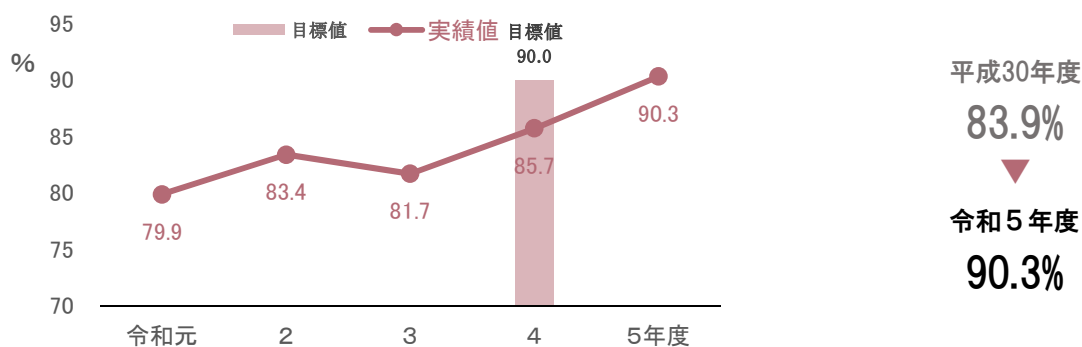
「求められる英語力（CEFR B2レベル以上）を有する英語担当教員の割合（県立高校等）」は、前年度より増加しました。また、「県立高校の耐震化率」についても、計画的に取り組んだことにより、前年度より増加するなど、学校教育の質の向上や安全・安心で快適に学べる教育環境の整備を着実に進めました。

指標の状況

※実施計画では、計画最終年度である令和4年度のみ目標値を設定しています。

高校生活を振り返って満足した生徒の割合(県立高校等)

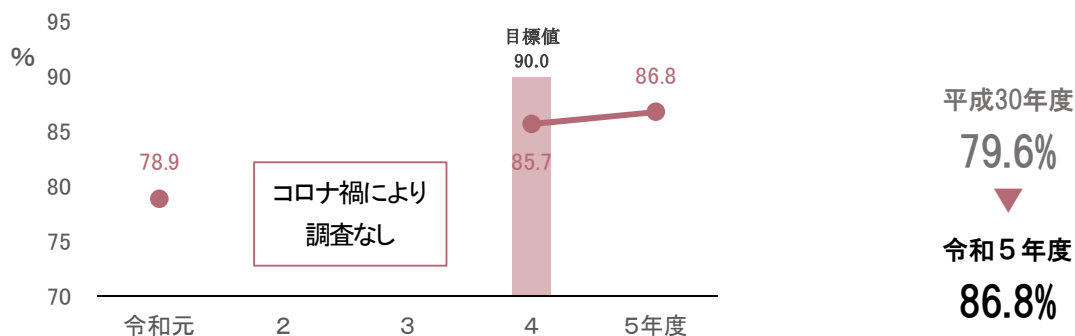
<県高校教育課調べ>



新型コロナウイルス感染症の5類移行を受けた学校教育活動の状況を踏まえ、生徒の満足度は回復し、前年度より割合は増加しました。

教師が、自分のよいところを認めてくれていると思う生徒の割合(公立中学校)

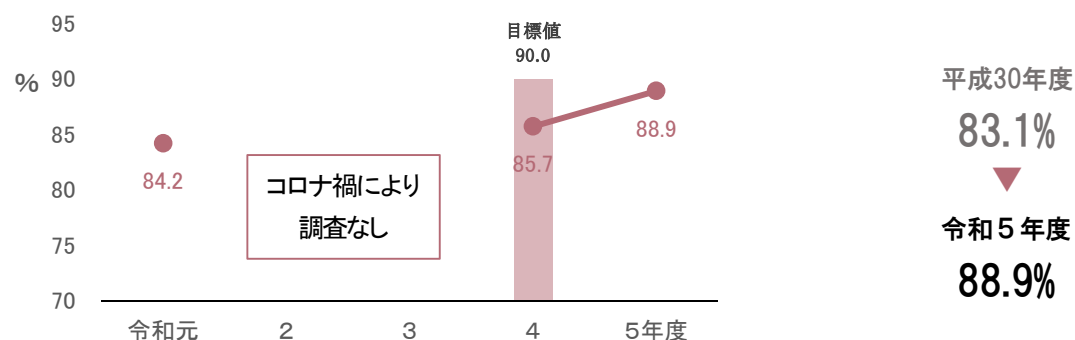
<文部科学省 全国学力・学習状況調査>



新型コロナウイルス感染症の5類移行を受けた学校教育活動の状況を踏まえ、教師が生徒に肯定的な評価を伝えられる機会が増えてきたことから、前年度よりも割合は増えていますが、引き続き自己肯定感を高める取組が求められています。

教師が、自分のよいところを認めてくれていると思う児童の割合(公立小学校)

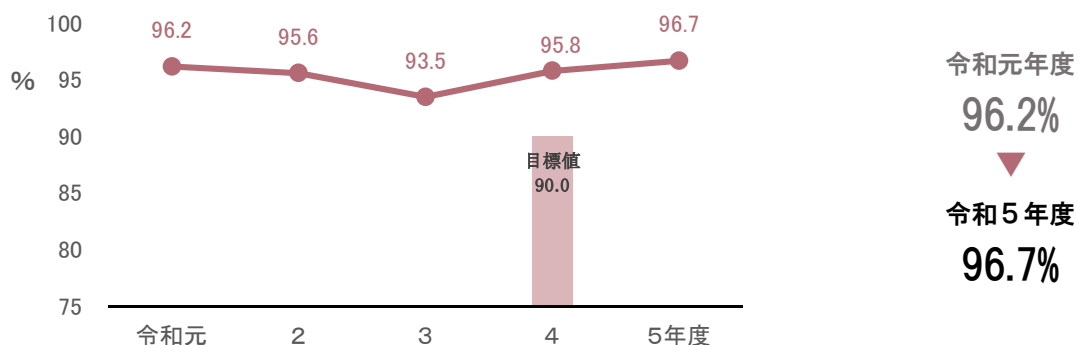
<文部科学省 全国学力・学習状況調査>



新型コロナウイルス感染症の5類移行を受けた学校教育活動の状況を踏まえ、教師が生徒に肯定的な評価を伝えられる機会が増えてきたことから、前年度よりも割合は増えていますが、引き続き自己肯定感を高める取組が求められています。

県立社会教育施設の利用者が満足と回答した割合

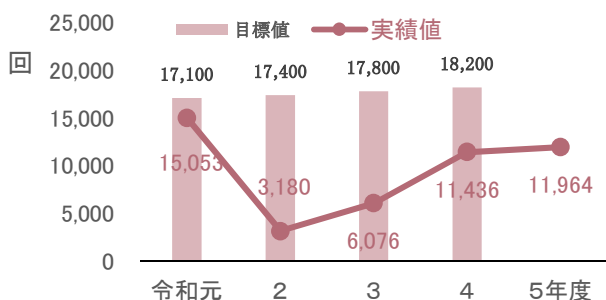
<県生涯学習課調べ>



コロナ禍により、事前予約や入場制限なども行い利用者満足度は一時減少しましたが、各館が来館者の興味やニーズに合わせ、専門性や特色を生かした展示や講座などの取組を行ったことから、満足度は回復してきています。

A 生涯にわたる学びの推進

① 県立学校施設開放の利用回数



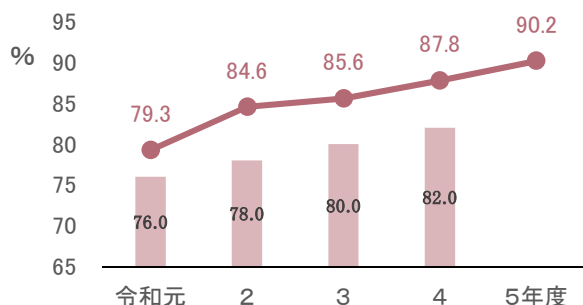
(大柱Ⅲ 学びを通じた地域の教育力の向上)

進捗率

令和元年度	2年度	3年度	4年度	5年度
88.0%	18.2%	34.1%	62.8%	-

新型コロナウイルス感染症の5類移行後、開放を再開した学校における利用は回復しつつあり、前年度より増加していますが、依然としてコロナ禍以前の利用回数より少ない状況です。

② 問題解決能力が向上したと回答した生徒の割合（県立高校等）



(大柱Ⅴ 学び高め合う学校教育)

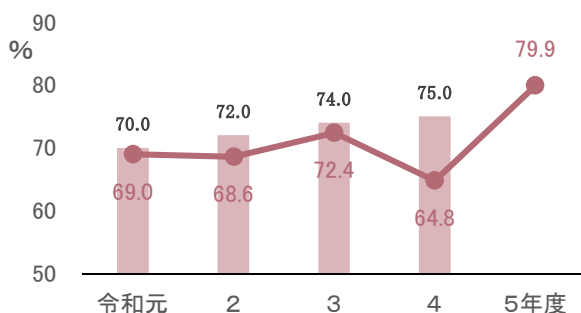
進捗率

令和元年度	2年度	3年度	4年度	5年度
104.3%	108.4%	107.0%	107.0%	-

各学校における主体的・対話的で深い学びの視点での授業改善を推進し探究活動を充実させるなどの取組が、県立高校等全体で進んだことにより、前年度より割合は増加しました。

B 生涯にわたる学びを支える環境づくり

① 求められる英語力（CEFR B2レベル以上）を有する英語担当教員の割合（県立高校等）



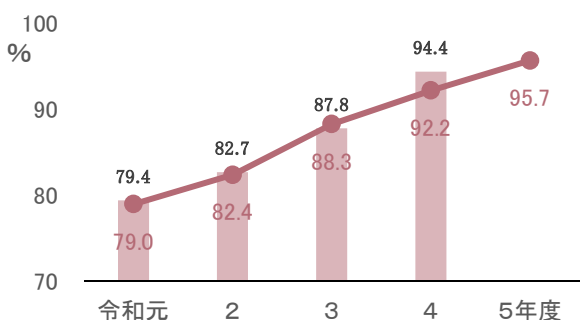
(大柱Ⅴ 学び高め合う学校教育)

進捗率

令和元年度	2年度	3年度	4年度	5年度
98.5%	95.2%	97.8%	86.4%	-

研修や検定試験受験補助等の取組により、前年度より割合は増加しました。

② 県立高校等の耐震化率



(大柱Ⅶ 県立学校の教育環境の改善)

進捗率

令和元年度	2年度	3年度	4年度	5年度
99.4%	99.6%	100.5%	97.6%	-

児童・生徒の学習環境の確保を図りながら、計画的に耐震対策に取り組んだことにより、前年度より耐震化率は増加しました。

【全体を通じて】

現行の学習指導要領では、教育に求められているのは、急速かつ激しい変化が進行する現代の社会の中で、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力、他人を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性、たくましく生きるための健康や体力などの「生きる力」をはぐくむこととされている。

県教育委員会では、その課題を解決していくために、本県の総合的な指針である「かながわ教育ビジョン」の第5章で「重点的な取組み」として整理している。そのうち主なものを県の総合計画である「かながわグランドデザイン」の実施計画に位置付け取り組んだ。第3期実施計画の中で、県立高校改革をはじめとした一人ひとりの「生きる力」を高める学校教育の充実など生涯を通じたかながわの人づくりを進め、その結果として、新型コロナウイルス感染症の影響があったが、各指標は増加傾向にあり、特に「高校生活を振り返って満足した生徒の割合（県立高校等）」が平成30年度の83.9%から令和5年度には90.3%に増えたことは評価できる。

【具体的な取組のKPIについて】**A 生涯にわたる学びの推進**

「県立学校施設開放の利用回数」について、県立学校施設開放の利用回数が新型コロナウイルス感染症の影響もあり、令和2年度に大きく目標を下回ったが、新型コロナウイルス感染症の5類移行後の利用回数は回復しつつあり、前年より増えていることは評価できる。しかし、まだコロナ禍以前の利用回数より少ないことから、さらなる利用促進に向けた取組が望まれる。

さらに、「問題解決能力が向上したと回答した生徒の割合（県立高校等）」が令和5年度に90.2%となるなど各学校における主体的・対話的で深い学びの視点で授業改善や探究活動の充実など学びの推進が図られた結果と言えよう。

B 生涯にわたる学びを支える環境づくり

「求められる英語力（CEFR B2レベル以上）を有する英語担当教員の割合（県立高校等）」が令和元年度の69.0%から令和5年度の79.9%に増えたことは、グローバル化に対応した英語教育の推進に大いに役立っていると言えよう。ただ、目標値を設定している令和4年度まで、各年度の目標の数値を下回っていることは気になるところである。

さらに、災害に備えた生涯にわたる学びを支える環境づくりは大切であり、「県立高校等の耐震化率」が令和元年度の79.0%から令和5年度の95.7%に増えるなど安全・安心で快適に学べる教育環境の整備に計画的に取り組んだことは評価できる。

今後も学校教育の質の向上や学校の耐震補強や老朽化対策にむけて計画的な整備を期待したい。